

日東工業株式会社

2020年3月期 通期決算説明会（質疑応答）

【概要】

日 時：2020年6月5日（金）15：00～16：00

形 式：電話会議

登壇者：日東工業株式会社	取締役社長 COO	黒野 透（以下、黒野）
	執行役員 生産本部長	飯田 英人
	執行役員 経営管理本部長	手嶋 晶隆（以下、手嶋）
	総務部 担当部長	真野 貴明

※一部要点をまとめて記載しております。

質疑応答

Q: 今期はコロナの影響があるとのことなのですが、依然として、売上は中計を上回る水準で見えらっしゃる。これは M&A の効果とかもあると思うのですが、利益のほうは中計に対して欠ける部分が大きくなってしまふ。この辺りの背景をもう少し教えていただけないでしょうか。

手嶋: 利益が少し重たいというご指摘でございました。そのとおりでございます。配電盤関連製造事業のところの売上、トップラインが下がってくるとどうしても限界利益が下がり、固定費等々を賄うには厳しくなるということでございます。先ほどの説明の中でもありましたが、当社グループの利益の大半は配電盤関連製造事業であり、81%を占めています。ここが下がると全体への影響が大きいということです。それから、今期の連結業績予想については情報通信関連流通事業を少し強めに見ております。こちらはトップラインが上がっても、商社でございますので全体としては利益率が下がります。その結果、全体をミックスすると利益がどうしても重くなってしまう計画をしております。

Q: 今期の見方についてです。半年ぐらい遅れて影響が出るというのが過去の経験則からということですが、上期のほうマイナス率としては少し大きめに見ているようですが、これは学校空調のところの反動が上期に大きく出てくるので、率としてはこういう結果になるというイメージを持てばいいのでしょうか。何か他に要因があれば教えていただければと思います。

手嶋: 今おっしゃっていただいたように、前期との比較ということで申し上げますと、前期は第 1 クォーターから学校空調をはじめとする配電盤類がかなり好調でございました。生産のほうも、例年ですと第 1 クォーターより第 2 クォーター、第 2 クォーターより第 3 クォーターという形で徐々に上がっていくのですが、前期は学校空調が入った関係で、かなり第 1 クォーター、第 2 クォーターにかけて生産、売上ともに高かったということでございます。今期はそれが剥落する影響が大きくなっております。5G 関連も含めて、下期のほうが強くなるものですから、どうしても上期、下期で見ますと、上期が大きくへこんでいる形になり、先ほどおっしゃっていただいたようなイメージになるだろうと思っています。

Q: 半年遅れで影響が出てくるという傾向を考えると、コロナの影響というところでは、今期中に影響は完全には一巡しないで、来期も上期ぐらいまで相当に影響は残るといったイメージで見たほうがいいのか。もしくは、2Q ぐらいから経済活動が復調してくるという前提であり、今期でほとんど影響は収束すると見ていいかという、今はどういう見方をされているか、教えていただけないでしょうか。

黒野: 本当に不透明な状況でございまして、今期いっぱいまでは、配電盤関連製造事業に関しては影響が出てくるものと予想しております。そして、来期にかけても、例えば建物が建たない、建築が萎縮している。また、今ですと飲食関連や観光業であるとか、そういったものの建物が延期をしたり、縮小をしたりというような状況になっていると思います。そのあたりが継続していくと考えると、われわれの来期も少し弱くなるという可能性がございます。ただ、それもなく順調に回復していくことも考えられますので、不透明な状況にあると思っています。

以上